

血

シリーズ～新イエス～

2025/4/6

イエスの死は「血」と結びついている

- イエス自身「血」による契約と言われた
 - 「これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。」(マタイ 26:28)
- パウロもイエスの「血」を強調した
 - 「それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから…」(ローマ5:9)
 - 本来キリストの「命」と表現するべきだが
- 「死(命)」と「血」は本来同じではない
 - 血を流さずに死ぬことの方が多い

なぜイエスの死は「血」と結びついているのだろうか？

旧約聖書における「血」

• 出エジプトの際の過越しの出来事

- 「その小羊は、傷のない一歳の雄でなければならない。…皆で夕暮れにそれを屠り、その血を取って、小羊を食べる家の入り口の二本の柱と鴨居に塗る。」(出エジプト12:5~7)

• 命は血の中にある(血を食べてはならない)

- 「イスラエルの家の者であれ、彼らのもとに寄留する者であれ、血を食べる者があるならば、わたしは血を食べる者にわたしの顔を向けて、民の中から必ず彼を断つ。生き物の命は血の中にあるからである。」(レビ記17:10-11)

律法における「血」

• 罪を贖うための血

- 「わたしが血をあなたたちに与えたのは、祭壇の上であなたたちの命の贖いの儀式をするためである。血はその中の命によって贖いをするのである。」(レビ記17:11)

• いけにえ血は全て地に流す

- 「献げ物の頭に手を置き、焼き尽くす献げ物を屠る場所で贖罪の献げ物を屠る。祭司はその血を指につけて、焼き尽くす献げ物の祭壇の四隅の角に塗り、残りの血は全部、祭壇の基に流す」。(レビ記4:29-30)

イエスが流した「血」

• 鞭(むち)打ち

- 「そこで、ピラトはイエスを捕らえ、鞭で打たせた。」
(ヨハネ19:1)
- ローマが用いた鞭は金属や骨などがついていたので、皮膚を裂き、激しい痛みと流血を伴った

• 茨(いばら)の冠

- 「茨で冠を編んで頭に載せ、また、右手に葦の棒を持たせて…」(マタイ27:23)

• 手と足に打たれた釘

- 「トマスは言った。『あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ…』(ヨハネ20:25)

地に注がれた血

- 最後に心臓を槍で刺し貫かれた

- 「兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出した。」(ヨハネ19:34)

- イエスの血は完全に体外に流出し、地に注がれた

- 血の完全な流出は、完全な死を意味する

- イエスの血は罪を贖ういけにえとしてすべて地に注がれなければならなかった

- 「残りの血は全部、祭壇の基に流す」。(レビ記4:30)

イエスの血によって

- 罪を贖われ、完全に赦された

- 「わたしたちはこの御子において、**その血によって贖われ、罪を赦されました**。これは、神の豊かな恵みによるものです。」(エフェソ1:7)

- 万物が神と和解した

- 「**その十字架の血によって平和を打ち立て**、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と**和解させられました**。」(コロ1:20)

- 永遠の契約が結ばれた

- 「これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、**契約の血**である。」(マタイ26:28)

イエスが血を流した目的

- **確かに傷つき、痛まれたことの証として**

- 「キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」(ペトロー2:24)

- **確かに死なれたことの証として**

- 「イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。」(ヨハネ19:33-4)

- **永遠の命の飲み物を与えるため**

- 「わたしの肉はまことの食物、**わたしの血はまことの飲み物**だからです。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしも彼のうちにとどまります。」(ヨハネ6:55-56)

血は命であり、命を肉と共に食べてはならないからである。血は食べることなく、水のように地面に注ぎ出さねばならない。

申命記12章23～24節

それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。

ヘブライ10章19節